

石川県森林公園 中期経営目標

(実施期間 平成27年度～平成29年度)

平成27年3月 策定

1 施設の設置目的

「石川県森林公園」は、津幡町市街地の背後にある津幡丘陵地区 930ha、三国山地区 220ha を併せて 1,150ha という広大な敷地を有する森林公園です。園内はクヌギ、コナラを中心とした広葉樹林に混じってスギ、アカマツ等の針葉樹人工林が点在し、その樹種は数百種にも及びます。また丘陵の谷間には御門池、加茂池等の人工池もあり、緑と水の調和した優れた自然環境に恵まれています。当公園は、そのすばらしい自然の中で、健康づくりやレクリエーションとしての憩いの場、あるいは自然学習、体験学習等、青少年の野外活動の場として整備されました。

2 施設の果たすべき役割

本公園は県土中央部に位置し、富山県にも接しており、金沢市中心部から車で30分～40分と、県民が手軽に利用できる地域に位置しています。

公園内は多様な植生や豊かな自然環境に恵まれており、植物観察等の野外学習や山菜取り、キノコ狩りやタケノコ取り等の自然体験学習に最適な場所となっています。

このように豊かな自然に恵まれた森林公園は、将来に向け、森林として保全すると同時に、自然の中での健康づくりや自然学習、体験学習等の子ども・青少年の野外活動を行うための、金沢・津幡等都市近郊の「森の公園」として位置づけられています。

3 事業内容

(1) 森林・緑地の保全と景観保持

森林の自然植生、人工林、天然林や下層植生等の現存植生を保全管理するとともに、公園緑地の景観を保持します。

(2) 森林浴、森林セラピーやレクリエーション活動施設の提供

遊歩道、広場等森林浴やレクリエーションに適した施設を整備し、県民が気軽に森林の中で自然とふれあう機会を提供します。

(3) 野外教育活動施設の提供

野外で活動する機会が少なくなった子ども・青少年に対し、自然観察や体験学習施設を整備し野外学習の場を提供します。

(4) 県民参加による森林づくり活動施設の提供

公園内の森林を県民共有の財産と考え、県民が自ら作業し森林づくりに係わる場を提供します。

4 現状と課題

(1) 管理運営体制について

- ・森林公園では、民間のノウハウを活用して、施設を効率的・効果的に管理するため、指定管理者制度を平成18年度から導入しています。
- ・公園利用者に対する利便の提供、利用の促進、利用施設・設備、備品及び植栽等の維持管理及び修繕に関する業務などは指定管理者が行っており、当中期経営目標の実施期間である平成27年度から平成29年度までは、「森林公園地域振興会・金沢森林組合エコグループ」を指定管理者として指定しています。
- ・県では、利用状況や利用者からのご意見、小修繕の実施状況などの管理状況について、指定管理者より定期的に報告を受け、運営指導や財政支援を行うなど、適正な管理・運営に努めています。
- ・県は、指定管理者と調整し、老朽化した施設の更新・修繕などを実施しており、今後とも取り組みを充実させる必要があります。

(2) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上について

- ・目視等による施設、整備、遊具等の巡回点検を行い、常に安全かつ良好な状態を保持し、異常を発見した場合は、速やかに適切な処置を行います。特にハチ類の対策に努めていますが今後も安全を第一に適正な管理を行います。
- ・芝生広場の管理、遊歩道等の管理、林道等の管理などの維持管理については計画的かつ状況に応じて実施し、良好な環境づくりに努めます。
- ・現在指定管理者において、地域の自然、環境を利用し、魅力あるイベントを企画し実施しているが利用者の意見等を取り入れより良いイベントを実施します。
- ・森林公園で実施される各イベント等へ支援協力を行い、多くの方が利用できるよう努めます。
- ・広報活動として、ホームページの開設等を活用した情報発信を行っており、今後とも四季に応じた情報発信の充実に努めます。
- ・森林を県民の財産として考え、地域や関係機関、ボランティア等との連携を促進することが求められ、「企業の森づくり」、「ミーシャの森」等の活動に協力を行います。

(3) 施設運営の効率化について

- ・県と指定管理者間で連絡体制を確立し、常に情報を共有するなど、非常時にも即時対応できるよう連携を図り、迅速かつ効率的な施設運営を行います。
- ・今後とも、指定管理者の創意工夫に基づいた管理運営により、質の高いサービスを公園利用者に提供するとともに、管理経費の削減に努める必要があります。

5 中期経営目標

(1) 中期経営目標(指定管理者が実現すべき目標)

- ① 利用者数を3年間で3%増加させます。
- ② 利用者アンケートによる満足度は、引き続き95%以上を維持します。

(2) 測定指標と目標値

測定指標		H25実績値	目標値(H29)
① 利用者数		183,553人	189,060人
② 利用者アンケート における満足度	利用者サービス	98.6%	95%以上
	施設の維持・管理	95.6%	95%以上

6 指定管理者が設定した目標達成に向けた具体的な取組内容

(1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上に向けた取り組み

① 利用促進に向けた取り組み

- ・フォレストサポーター会など森林ボランティア団体と連携した活動や、農林水産部所管の「企業の森づくり推進事業」、環境部所管の「MISIA(ミーシャ)の森プロジェクト」等に積極的な取り組みを行います。
- ・森林セラピー基地を活用した多様なプログラムにより、森林セラピスト等の有資格者の積極的な活用と多様なセラピープログラムの提供により、お客様へ目に見える形での「いやし」と「うるおい」を提供します。
- ・地元の祭りや食材、優れた自然環境などの活用により、年間を通じた体験教室や観察会など各種イベントを積極的に展開します。
- ・アンケート調査等の実施による多様な利用者ニーズの把握を行い、近隣県も含めた小中学校への直接、間接的な勧誘、季節毎の優れた自然や癒しの効果などをPRする魅力的なホームページの設置を進めます。

② 利用者サービスの向上に向けた取り組み

- ・各種の要望、苦情などに対する報告、処理体制の整備と、職員に対し定期的な接遇、安全管理研修を実施し、マナーや安全性を向上させ、利用者に対して質の高いサービスの提供に努めます。
- ・森林セラピストや森林インストラクター、ビオトープ管理士、山菜アドバイザー、ツリークライミングファシリテーターなどの専門の知識や技能を有する職員や外部講師の招聘により実施します。
- ・職員等に対し、森林公園が「森林セラピー基地」に認定されたことに伴い、より健康効果が高い森林の利用方法を指導する、森林セラピストや森林セラピーガイド

の資格取得を促進する。

(2) 施設運営の効率化に向けた取り組み

- ・持続可能な里山の環境保全では職員が、ビオトープ計画管理士の資格を取得し、一層の環境保全に配慮した公園管理に努めるとともに、これまで同様、「いしかわ版里山づくり ISO 認証制度」、「石川の森林整備活動 CO2 吸収量認証制度」など、各種の保全活動に参加するとともに、これまで取り組んできた、地域文化や優れた自然の情報発信、様々なイベントの展開等に継続して取り組むことにより、青少年の健全な育成や自然保護意識の高揚を図り、これまで培ってきた指定管理者のノウハウを十二分に発揮し、魅力のある管理運営に努めて参ります。
- ・安全への配慮とお客様の視点に立った対応により、利用者の安全性、利便性を第一とした管理運営を行うとともに、公園内で発生した間伐材等については、ベンチやイス、木製遊具の製作、チップ化し歩道に散布するなど、森林総合利用施設として環境に配慮した管理運営を行います。
- ・公園管理士、森林インストラクター、ビオトープ管理士、石川自然学校のインストラクターや土木・造園施工管理技士の資格を持つ職員による専門技術研修を実施することにより、管理技術の向上に努めます。
- ・これまで取り組んできた
 - ①いしかわ事業者版 ISO 登録制度（電力、灯油などの消費削減）
 - ②石川森林整備活動 CO2 吸収量認証制度（森林公園に隣接する荒廃森林の整備）
 - ③いしかわ版里山づくり ISO 認証制度（生物多様性保全活動）
 - ④林野庁が実施している「フォレストサポーターズ登録制度」（森林整備の推進）
 - ⑤森林公園内で行われる企業の森づくりへの支援
 - ⑥いしかわグリーンウェイブ（里山里海の保全活動の推進や生物多様性の普及啓蒙活動）
 - ⑦石川県におけるクールシェアスポットの登録施設などに継続的に参加し、地球温暖化防止等の環境保全活動を推進します。

参考資料(施設の利用状況など)

(1)利用指標(利用人数、稼働率などの状況) (人)

項目	H23	H24	H25
入園者数(津幡園地)	154,302	163,131	169,258
入園者数(三国山キャンプ場)	16,330	15,807	14,295
計	170,632	178,938	183,553

(2)使用料の収入実績 (千円)

項目	H23	H24	H25
利用収入(津幡園地)	2,428	2,104	2,738
利用収入(三国山キャンプ場)	4,994	4,896	4,664
計	7,422	7,000	7,402